

【新潟市租税教育推進協議会長賞】

「砂糖税から考える、税との向き合い方」

新潟県立

新潟高等学校

二年 中野 萌 葉

夏、暑い日々が続く。すると当たり前のように喉が渇く。何か冷たいものが飲みたい、そう思つて自動販売機の前に立つ。近くのコンビニエンスストアに入るなんてこともあるかもしれない。さて、何を買おう。水かお茶か。いや、こんな暑い日にはやっぱり炭酸だろう。そう思つて何も考えずに炭酸を買う。しかしご存知だろうか。世界には炭酸飲料にも税金を払う国があるということ。

私は最近、論表の授業で砂糖税というものを知った。ソーダ税とも言われるこの税は、清涼飲料水などに対して砂糖含有量に応じて課されるそうだ。現在四五カ国以上で導入されている。まさかこんなところに税金を払うとは・・・驚きを隠せなかった。しかし以前家庭科の授業で見せられた、コーラ一本に含まれた袋いっぱい砂糖を思い出すと、納得せざるを得なかった。そう、この税は肥満や虫歯、心臓病を防ぐため、また砂糖の消費を抑制するために、導入されているのだ。

しかしこの砂糖税には本当に効果があるのか、気になったので調べてみた。イリノイ大学シカゴ校の論文を見つけた。二〇一八年に砂糖税を導入したワシントン州シアトルと導入していないオレゴン州ポートランドを比較したものだ。論

文によれば、課税二年後、砂糖消費量は合計で一九パーセントも低下した。砂糖税は砂糖の消費量に、健康被害の発生率に、大きな影響を及ぼす可能性があるのではないか、そう思わされた。

このように、他国では、砂糖税は一人でも多くの国民の命を守るために徴収されている。そしてそれだけにとどまらず、他の税同様、社会保障制度の充実や維持など国のために使われる。これは一石二鳥ではないか、砂糖税、すごい。そう思った。税を払うことによって自分が救われたり、良い報いが巡ってきたりするかもしれない。

では、日本ではどうだろうか。実は日本でもかつて砂糖税が導入されたことはあったが、それは砂糖が嗜好品である、つまり贅沢品であると考えられていたからである。しかし現代。冒頭でも述べた通り、砂糖は心臓病にも繋がる。そして日本人の死因第二位は心疾患、つまり心臓病。さらに厚生労働省による調査では、日本人（特に男性）の肥満度が少しづつではあるが上昇傾向にある。今こそ砂糖税の出番かもしれない、そう思うが、政府はなかなか動かない。そしてその間にも健康被害は起こっている。

さて、ここまで砂糖税による効果等、色々述べてきたが、私は政府に、砂糖税を導入しろと言いたい訳では決していない。確かに砂糖税はすごい。画期的な発明だと思う。しかしこれでは、なんでも税にしてしまえば解決すると言っているように感じてしまう。よりよい解決策があるかもしれないのだからこそ、一人一人が税の意義について考え、税との正しい距離感を見出す、そんな社会を創っていく必要があるのではないか。